

ちょうふの街路樹



もから
とあ松
つた(右)
けヤキ(左)



武蔵境通りの色々な緑

数年前、市内で最大規模の道路幅(36m)にされた「武蔵境通り」には、将来大きくなることを見込んだケヤキが車道側に並んでいる。そして道路の各所には道路工事で植えられたものではないアカマツの太木や元の屋敷林や神社の社の木がそのまま残され、他の道路にはない景色を見せている。

また歩道の内側には多数の花木(アカバナトチノキ、エゴノキ、コブシ、サルスベリ、ハナミズキ、アメリカザイフリボク、各種ツツジ類、アジ

サイ、ヒペリカム属、ユキヤナギ、シモツケ他)や草花(フイリヤブラン、シヤガ、ユリ科キスゲ類)が見られる。それらの中には地元の植木畑から無償で提供された美しい花木もあった。

これらは東京都と住民との話し合いで「武蔵野(深大寺らしき)の面影を残す樹種を主体としたい。」と決めたものだし、草花も住民の具体的な提案で決まったものだ。

ここでは道路完成以降も地域の人人々による除草等のボランティア活動が続けられ、美しい緑の景観が維持されている。

甲州街道のケヤキ



真夏の路面は50度以上に上がる。そう、渋滞の時など偶然木陰の下で停止すると、その涼しさにほっとさせられる。また秋の紅葉もすばらしい。そんなケヤキも冬には毎年の強剪定で衰えな姿を見せる。

上の原五差路のサクラ



五差路角の商店の方が昭和45年にいらつしやったときにはすでに立派なサクラ並木だったそうだが、台風や交通事故で除々に枯れ、今では3本が残るのみ。

品川通りのサルスベリ



東京オリンピックにより道路が次々に整備されていた頃、品川通りにはそれまでの街路樹と違って花のきれいなサルスベリの木が配置されたという。それ以後、昭和49年からは

調布の花と制定され親しまれている。ところで国領7丁目のあたりに台木が萌芽したのかシマサルスベリというちよつと変わったサルスベリがありますが分かるかな。

調布の生き物 虫編

秋に鳴く虫



朝夕が涼しくなり、虫の鳴き声もセミからコオロギ等のバッタ目のものが目立つようになりました。秋に聞くことができる「鳴く虫」として、これらバッタ目のコオロギ類、キリギリス類の他、スズムシやマツムシ、カネタタキ等、多くの種類をあげることが出来ます。桜や樺の木の上で「リーリー」と強く大きく鳴くのはアオマツムシという外来種。ちよつとした生け垣等から小さいながらも規則正しい「チツチツチツ」または「チンチンチン」と聞こえてくるのはその名の通りカネタタキ。多摩川の河川敷等の草地では、「リーンリーン」と鳴くスズムシを始め、多くのコオロギ類やキリギリス類が生息しています。エンマコオロギは、コオロギ類でも比較的メジャーな種類ですが、「コロコロコロリーリー」と表記されるにもかかわらず、実際はもつとも悲しさを漂わせているように思えます。このように、鳴き声を文字で表現することはとても難しいので、とにかく、「耳」で聞いて自分なりに当てはめ、覚えることがこつではないかと思えます。

石川和宏

ちょうふあちこち 佐須の田んぼで



9/18 今年も田んぼの学校のみんなで作った案山子が勢ぞろい。9/25 にはかつて農家の生活に欠かせない薪炭林だったカニ山のキャンプ場で花炭を焼き、キャンプ体験もしました。

水生植物園で



普段は植物公園の管理だが田植えや案山子作りは近くの小学生が行った。こちらも台風で倒れたとはいえ豊作。

北米原産のアレチウリは、1952年（昭和27年）静岡県の清水港で輸入大豆に混入した種子が確認されたのを最初に、豆腐豆の流通経路に沿って分布を広げ、本州以南の日本各地で河原や牧場、耕作放棄地など肥沃な場所ですぐに繁殖地を拡大している。

市内を流れる多摩川や野川流域でも、ヨシ、オギ、など河川敷の植物に巻き付き、覆い被さるようになり大繁殖した姿が観察され、生態系を脅かす心配があり、問題となっている。

繁殖力が強く、成長も速いアレチウリは「まわりの固有在来種が駆逐されてしまう恐れがある」として、2006年（平成18年）2月から外来生物法によって駆除すべき「特定外来生物」に指定され、

流水に流された種子は漂着地で休眠し、翌年には新天地で発芽する。

長野県では「アレチウリ駆除全県統一行動日」を定め、2007年（平成19年）7月29日に駆除を行う民間団体、市町村、県等が連携して、県下各地で抜き取り作業によるアレチウリ駆除駆除作戦が行われた。

千曲川河川事務所のマニアルによると、駆除には ①種をつける前に抜き取る。②小さいうちに抜き取る。③1年に数回抜き取る。④出現しなくなるまで数年間続けるとある。

市内でも去る8月29日、生物多様性保全協会主催、調布市（環境政策課・調布市多摩川自然情報館）共催の抜き取り作業が多摩川で行なわれた。

花の履歴書⑪

戸部英貞（絵・文）

アレチウリ（荒地瓜） ウリ科



Sicyos angulatus L.

法律によって移動が禁止された。
アレチウリは種皮の吸水阻害によって物理的な休眠性を持っており、水に浸かっている間は発芽しないが、冬の低温と土壌の乾燥を繰り返すと目醒め、

ふるさとこの風景

文 瀬本敏行

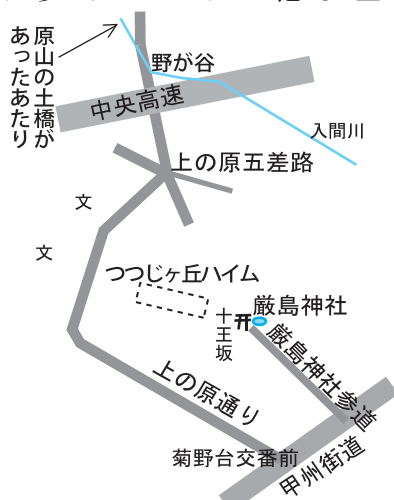
⑤ 厳島神社から野ヶ谷

私が小学生時代遊び回った上ノ原を中心ハケ上の林や湧水、野川周辺の様子を思い出すがままに書いてきましたが、そろそろ種が尽きてきました。断片的になりますがその他の場所のエピソードを紹介してまとめにしようと思います。

上ノ原から東、つつじヶ丘ハイムの立つ丘に日本針布（株）の工場が建っていました。崖線の上、松林に映える白亜のコンクリートビルは（戦時中は迷彩色）遠く多摩川からでも分かるほどで、子供にとつての目印でした。今でも特異と思うのはその構内に二十五坪の競泳プールがあった事です。ただこのプール、いわゆる「湧水掛け流し」で10cmほどの鉄管から常に湧水（ハケ水）が噴き出し溢れ出ていて、溪流のように冷たく透き通った水の満ちたプールでした。

従って現在工場地帯になつて居る崖下から上ノ原通りまでの一帯は田圃が広がっていました。隣の厳島神社の境内には湧水の池があり沢山のカメが飼われていました。その東から甲州街道あたりまでの緩斜面は丘全体が畑で麦や芋が植えられていました。十王坂・針布の辻から甲州街道の西つつじヶ丘の信号に出る新道が整備されるまでは、甲州街道から厳島までの鳥居のある参道が唯一の公道で、茶の木に挟まれた道がまっすぐ畑の中に伸びていました。

上ノ原から北に上ノ原五差路への道は一旦下り、小川をわたつて再び登ります。ここも小さな谷戸を形成し清水が流れていました。（今調べてみると東に流れ入間川に合流したようです）ここもホテルのポイントだったそうです。五差路を北上、畑の中の坂道を下りて行くとチョット大きな小川が流れ、石の橋が架かっていました。（中央高速の高架下あたり）流れを中心には田圃で、川は今下りて来た舌状台地を右に巻くように流れ中原の湿地帯に流れ込んでいました。湿地帯では、ザルで泥をさらいしてエビガニやドジョウ、タニシなどを捕って遊びました。石橋から上流に向かって少し行くと原山通りに架かる土橋があり、ある時期大きなタナゴが獲れたのでよく釣りに行きました。（入間川・水源は諏訪神社付近）茜色の空の下、田と川面に夕もやが立ち込め、原山の土橋を野良の仕事帰りの人が急ぎ足で通り過ぎて行きました。宅地造成が進み団地が建ち、今や見る影もありません。（了）



◆若葉緑地の会

8月は夏休みでした。

9月11日(日) 午後も活動参加者13名
夏草刈りを重点的にする。間伐3本。
スズメバチが、活動中に会員の指先に止まるが「動くなー」の声で事なきを得る。皆さん気を付けて下さい。

蒸し暑かったので、早目の水分補給をする。(理想の飲み物は麦茶+梅干しとか) “環境省熱中症マニュアル”をアクセスしてみして下さい。

午後は隣地のアオキの伐採をする。

ミスジマイマイ、カメムシ、クロアゲハ、植物はヤブミヨウガ、ヤブラン、カワラタケ、ヤブガラシ等が見られました。(会員からマダニに刺された話を聞く。マダニにも注意を！)

9月22日(木) 参加者3名

緑地内の台風15号による被害を見て回りました。桜の枝や緑のドングリを付けたままの細い枝がたくさん落ちていたり、太い栗の木は途中から裂けて地面に斜めに刺さっていました。第3緑地の倒木はありませんでしたが、強風による古木の被害は大きな物があります。枝を片付け、第1緑地の被害を見に行きました。(住田)



ロープワークでの間伐



台風で折れた栗の木



植生保護用の柵



台風での倒木



オオバジャノヒゲ



台風で隣家のケヤキ枝がフェンス直撃



キャンプ場北側の草刈



東樹林の倒木根腐れと台風12号のせい

◆若葉の森3・1会

9月4日(日) 曇り 参加者10名

ヤブランの花が2ヶ所、日差しが届く地面に咲いていました。日光が地面に届くことが大切のようです。

今回新たに、植生保護用の囲い柵(写真)を剪定した枝を利用して作り始めました。フライブルク(ドイツ)のコンポスト柵を参考にしましたが、比較にならないほど小さなものです。また、落葉かき、低木や竹の伐採、台風12号の余波の強風で折れた枝やゴミ拾いを行いました。

9月23日(金) 晴れ 参加者7名

9月21日の台風15号により大木が倒れ(写真)、大枝が折れ、大変危険なので、急ぎよ後片づけを行いました。緑地の傍の通学路に倒れる危険がある大きな枝は調布市に通報し22日に処分されました。当日は、危険な倒木や大枝の切断、折れた枝の片づけ、通学路や緑地内の落葉かきなどを行いました。緑地内の通路を完全にふさいだ巨大な枝の処分は終わりました。改めて自然の猛威に驚かされました。(K)

◆入間・樹林の会

8月21日(日) 雨 参加者8名

雨の中2人の子どもを含め、7月に続いて民家と隣接する三角地の下草刈りを行いました。クサギ・コウゾで道路も見通せなかったり、アジサイ林も下草に紛れたり下草との競争です。草むらを見ると、隠れる所がなくなつたナナフシ・カマキリが現れました。シマヘビがニホントカゲを食べる様子は子どもも大人も見入っていました。花は、キツネノカミソリ・ミスヒキ・ヤブラン等の他、はじめてオオバジャノヒゲの花をみつけました。

9月25日 参加者5名

台風15号の影響を見て回ると、樹林地内には、枝が散乱していました。ケヤキの枝が折れて隣家のフェンスが曲がっていました。倒木がなかったのが幸いです。小学生の助っ人が枝と葉っぱを分ける作業をもくもくと続けてくれ、枯れ枝の山は見た目もよくなりました。枯れ枝の山や近隣住民の投げ入れられる伐採枝の山の処分が今後の課題です。花はあまりなくヤブタバコ・ミスヒキ・クサギ・ハエドクソウ・ヌスビトハギ等。(安部)

◆カニ山の会

8月13日(土) 参加者5名

キャンプ場北側緑地の草刈り。センター付近を残し、周囲の草刈りを実施したが、「もつと歯が切れると楽しくできるのでは?」そのためには道具の手入れは必須だが、来年度、適切な鎌を買ってもらいたい」との意見も。

カエル発見。バッタを食べにきているのだろうか? 植生と食物連鎖のつながりを実感。

9月10日(土) 参加者7名

前月に続きキャンプ場北側緑地の草刈りを実施。「どの程度刈るのか、最初に打ち合わせをしておく」と良い。「北側エリアは全て雑木林にする予定だったが、バッタその他を考慮して原っぱを残すことも考えたい。」カナヘビの子供やネムノキの実生発見。ヤブランの花はとても元気。

カニ山東樹林下段の倒木処理も行った。根返りによる倒木は台風12号によるものだろうか。7月に枝切りしてきたギャップの林床に植物が増えていた。その他11月に行うドングリ拾いのイベントについて話し合った。

(活動報告より)

ちょうふの自然 みつけた！

メーリングリストより

9/15 一昨日、庭の彼岸花のつぼみが出始めたことに気づきました。一週間ほど前から「チッチッチッチ」という声が…。これがあの「カネタタキ」というヤツかしら？そしてツクツクボーシ。自宅で鳴き声に気づいたのは8月20頃でした。数日前にも気づきましたが今日は聞こえません。セミの鳴き始めもなかなか気づきませんが鳴き終わり、というのを確認するのはもともとむずかしいですね。(NK)

9/20 連日の暑さに秋はどこへ行ったのだらうと思っていました。先日十五夜を飾るススキを取りに多摩川に行きました。残念ながらススキは一本も見あたらず、今年はセイバンモロコシを使いました。クズ、センニンソウが満開でヒガンバナも一本だけ咲いていました。(HT)

9/21 多摩川土手の草刈されていない所は葛やアレチウリが思うさま伸びてその下の草は殆ど見えないぐらいです。ようやく顔を見せた彼岸花は暑いお風呂から出てきた子供のような真っ赤な顔をしているようでした。(NM)



9/21 8/27暑いなか約30人が参加して、約300キログラムのアレチウリを駆除しました。凄い量でしたが、まだまだ追いつきませんね。見つけたら直ぐに駆除と皆さんで力を合わせていきたいですね。(HK)

樹林の生き物！



入間樹林で。
トカゲを飲み込む
シマヘビ



第3緑地の
(左) ヒメジウジナガカメムシ
(右) アカスジキンカメムシの幼虫



右は我が家の玄関先で穂を出しているイネ科のアオチカラシバ。元々は多摩川土手に生えていた雑草だが、普通は穂の色が黒っぽい緑色のチカラシバは少ない。あまりきれいなので種をバリと撒いたらごらんのように元気いっぱい。さすが雑草。あれは園芸植物だったと思うが以前昭和記念公園でこれに良く似た植物が沢山植えられていた。

山野草は採取できないがこれならお咎めなし。(NK)

散歩の途中で… ??ヒガンバナの不思議??

9月28日、水生植物園のヒガンバナも今が盛りだが、写真で分かるだろうか、手前の方はほとんどツボミ。奥のほうは満開。またその奥はツボミと、互い違いになっているのだ。偶然出会った横山先生に教えていただいたのだが、ヒガンバナの開花は日照時間によるという。で、朝夕木陰になる場所ほど早く咲く。温度変化も条件のひとつだろうが、確かにヒガンバナ前線というのは聞いたことがないのは、やはり日照時間が一番の条件だからだろう。(NK)



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●10/16(日) 9:30～12:00
●11/20(日) 9:30～12:00

カニ山の会

毎月第二土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●10/8(日) 10:00～12:00
●11/3(祝) はく蘇れ！雑木林(ドングリの森) Patenのイベントを行います。申込問合せ：環境政策課

042-481-7086
当日問合せ：田中 090-1818-1412

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/9(日) 20(木) 9:30～12:00
●11/13(日) 17(木) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10/2(日) 9:30～12:00
●11/6(日) 9:30～12:00

◆先の4グループとも活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

環境モニター

11月26日は市内を巡るそぞろ歩きです。参加希望の方は環境政策課へお問い合わせ下さい。

042-481-7086

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は 2009.3.15 に設立された市民組織「ちょうふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載しています。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆「自然だより」は調布市環境部(市役所8F)、市図書館 10 館、地域福祉センター、あくろす 2・3F、たづくり 11Fみんなの広場、郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さん、などに置いてあります。応援カンパ・置き場所を募集中です。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。